

## コーポレートアイデンティティ

コーポレートシンボルマーク



コーポレートシンボルマークは、長野銀行の頭文字“N”を基本モチーフに、「地域と銀行」「人と銀行」との融合を意味するふたつの楕円が、中心に向けてひとつに融合していく様を表現しております。コーポレートステイトメントは、企業姿勢を説明する短いキャッチフレーズのことであり、“ひと・くらし・コミュニケーション”とし、地域社会の人々と共に発展をめざすという意味がこめられております。

コーポレートロゴタイプ

**NAGANO BANK**  
株式会社 **長野銀行**

コーポレートステイトメント



## CONTENTS

ごあいさつ	1	サステナビリティへの取り組み	16	長野銀行の概要	26
沿革	2	役員一覧	20	健全性の維持・向上	31
長野銀行がめざすもの	4	コーポレート・ガバナンス	21	DATA	34
財務・非財務ハイライト	5	リスク管理体制	22	連結情報	35
個人のお客さまへの取り組み	6	コンプライアンス	23	単体情報	46
法人のお客さまへの取り組み	8	個人情報保護への取り組み	24	自己資本の充実の状況等	62
TOPICS・SERVICE	15	苦情・要望への対応	25	報酬等に関する開示事項	75
				開示項目一覧	76



## ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症により影響を受けている皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

皆さま方には、日頃より、長野銀行をお引き立ていただくとともに、温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。当行では、当行についてのご理解をより一層深めていただくとともに、2022年3月期の業績、経営内容をできるだけわかりやすくご紹介するため、ここにディスクロージャー誌を作成いたしました。

当行は、2019年4月よりスタートした第11次中期経営計画では、「不断の改革と更なる進化」のスローガンのもと、中小企業と個人に寄り添う「長野県のマザーバンク」の実現に向けて役職員一丸となり業容の拡充と経営の一層の効率化に努めてまいりました。

当行が営業基盤とする長野県経済は、新型コロナウイルス感染症への警戒感が重石となり、主要産業である観光業の本格回復までに相当な時間を要するものと思われます。また、資源・エネルギー価格などの上昇、人口減少など、お取引先や地域経済を取り巻く環境は当面厳しいものが予想されます。

このような環境下、2022年4月よりスタートした第12次中期経営計画では、「あなたのために、あなたとともに『ミライ』を創造～地域社会とともに新たな価値を創造～」をスローガンに据え、地域の皆さまの良きパートナーとして、総合金融サービス業の真価を発揮し、地域経済の成長と発展のため、役職員全員が一丸となって日々の業務に邁進してまいります。

皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2022年7月

代表取締役頭取 西澤 仁志

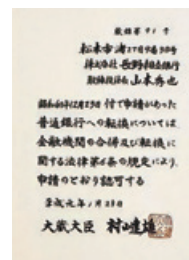


### 当行の概要 (2022年3月31日現在)

本店所在地	長野県松本市渚2丁目9番38号
創業	1950年11月15日
資本金	130億円
拠点数	県内52か店(うち出張所1) 東京1か店
店舗外ATM	56か所
従業員数	633人
主要勘定	預金残高 1兆738億円 貸出金残高 6,478億円

# 長野銀行のあゆみ

当行は1950(昭和25)年11月、県内商工業者の資金需要に応えるため、長野県商工信用組合として設立されました。その後、相互銀行を経て普通銀行に転換するなかで、創業以来一貫して堅実・健全な経営に徹し、長野県経済の発展に尽力してまいりました。今後も「お客さまと株主の皆さまおよび従業員の幸福と繁栄のために全力を尽くします」の経営理念のもと、めざす銀行像「長野県のマザーバンク」へ向かい、役職員一丸となって地域経済の発展に貢献してまいります。



1970.4



相互銀行に転換。  
「長野相互銀行」として  
新たにスタート

1985.5  
総合オンライン開始

1989.2

普通銀行に転換。  
「長野銀行」  
としてスタート

1950.11



当行の前身  
「長野県商工信用組合」設立

1980.1  
グループ会社  
「株ながぎんリース」設立

1983.8

新本店完成



2004.4



ながぎん  
松本センタービル  
完成

2022.4

東京証券取引所  
新市場区分  
「スタンダード市場」へ移行

2020-

2013.12

預金残高1兆円達成

2012.5

新オンラインシステム  
「STELLA CUBE」稼働

2008.2

外部格付の新規取得

2015.10

2003.11

融資支援システム  
「Key Man」稼働

1990.6

預金残高  
5,000億円達成

1990.7

グループ会社「長野カード(株)」設立

1997.3

東京証券取引所市場第二部へ上場

1997.5

新オンラインシステム「STAR-ACE」稼働

1998.9

東京証券取引所市場第一部へ指定



ながぎん長野センタービル完成

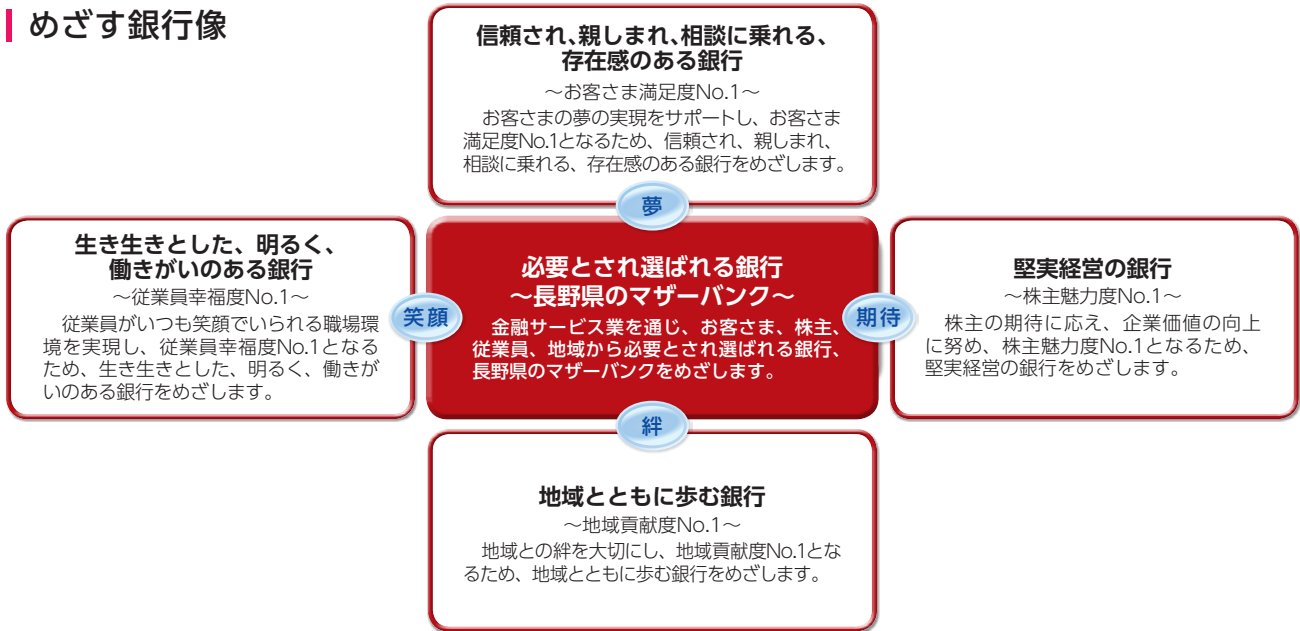


HISTORY OF NAGANO BANK

# 長野銀行がめざすもの

**経営理念** 当行は、お客さまと株主の皆さまおよび従業員の幸福と繁栄のために全力を尽くします。

## めざす銀行像



## 第12次中期経営計画（2022年4月～2025年3月）

**“あなたのために、あなたとともに「ミライ」を創造”**  
～地域社会とともに新たな価値を創造～

お客さま・地域の成長、発展支援を通じた持続可能な収益構造への転換による盤石な経営基盤の確立

### 4つの基本方針と基本戦略

<b>1 総合金融サービス業としての進化の発揮</b> 課題解決支援の徹底 ・法人コンサルティング ・個人コンサルティング ・地域共創社会の創造	<b>2 経営の多角化・高度化</b> 新たな取組の促進 ・事業領域の拡大による提供価値の多様化 ・グループ総合力の発揮	<b>3 DXの推進と業務改革</b> IT活用によるお客さま満足度・生産性の向上 ・オンライン完結型サービスの拡充	<b>4 人財の活性化</b> 何事にも積極的にチャレンジし、お客さまの期待と信頼に応えられる人財の育成
--	---	--	---

### 計数目標

指標	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
当期純利益	10億円	12億円	15億円
自己資本比率(単体)	9.3%程度	9.4%程度	9.5%程度
役務収益比率	14%程度	16%程度	20%程度
OHR	85%程度	83%程度	80%程度
創業・第二創業支援先数	累計150先	累計300先	累計450先
事業承継・M&A支援先数	累計250先	累計520先	累計800先

### 第11次中期経営計画(2019年4月～2022年3月)の主要計数目標と取組み結果

	創業・第二創業支援先数	事業承継・M&A支援先数	事業性融資残高	個人ローン残高	当期純利益	自己資本比率
<b>目標</b>	400先	600先	3,000億円	2,200億円	10億円	10%程度
<b>結果</b>	685先	753先	3,297億円	2,172億円	12億円	9.6%

(2022年3月31日現在)